

回転式破碎工法 アイエムリバース工法の概要と施工例

粕川 雅敏

KASUKAWA Masatoshi

RPS工法協会本事務局



1. はじめに

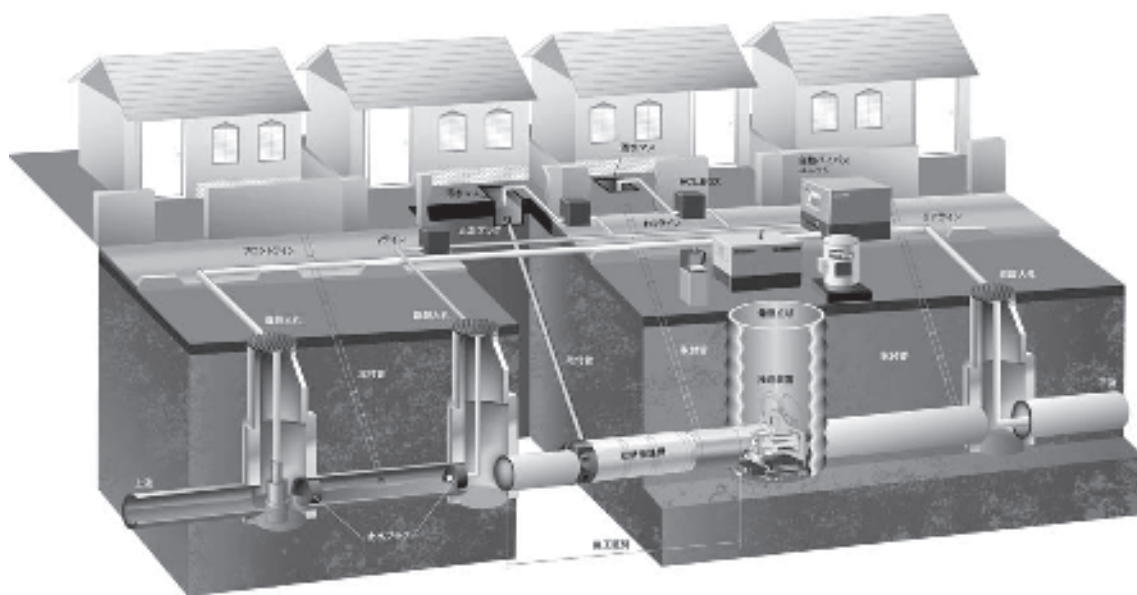
法定耐用年数50年超過する下水道管渠が年々増加し、下水道管渠の維持管理が大きな社会的課題となってきた。下水道管渠は経年変化による老朽化だけではなく、硫酸ガスによる著しい腐食、蛇行・たるみ・管ズレなどにより、管渠の詰りや流下能力の低下なども多くみられるようになってきている。下水道管渠の多くは市街地内に敷設されており、当初は開削工法より敷設された下水道管渠も、現在では騒音、交通遮断、他の埋設構造物などにより、開削工法による敷設替えが困難な状況が増えてきている。また、敷設替えを行

う場合には、供用下水のバイパスが必要となる。

アイエムリバース工法は、下水道管渠の敷設替えを改築推進機と専用バイパスシステムの組み合わせで非開削にて行う工法である。本稿では、工法の概要及び、施工事例について紹介する。

2. アイエムリバース工法の概要と特徴

アイエムリバース工法は改築推進機と下水道バイパスシステムにより構成されている（図－1）。改築推進機はアイアンモール工法用推進機（TP75SCL、TP95S、TP125S）をベースマシンとし、カッタヘッ



図－1 アイエムリバース工法イメージ図